

Vol.

1

高橋 和貴 (たかはし かずたか)

山響にヨーロッパの薫りを運ぶコンサートマスター

Q
A

2015年4月。新たな山響の“顔”が誕生しました！6月の「さくらんぼコンサート」でも颯爽かつ、豊かな響きをリードしたコンサートマスター高橋和貴さん。演奏に対する真摯な姿勢と愛嬌のある普段の姿。欧州での活動も活発に行いつつ、山響に新風をもたらす高橋さんに、第1回目の楽団員インタビューを飾っていただきます！

Q 山響との契約は、どのような想いから決断したのですか？

A 初共演は、飯森音楽監督との出会いがきっかけです。オーケストラは、夫々特色もっています。国内外問わず、特に地方オーケストラは、その土地の方々との密着度も強いです。山響は、ファンの方々との交流なども含め、その特徴がとても色濃く出ており、そんな環境の中に自分も加わり、音楽と向き合っていきたいと思ったからです。

Q 楽団の雰囲気は、いかがですか？

A 皆さん気さくで明るいですね。音楽に対して真摯に向き合っている姿が大好きです。

Q ヴァイオリンとの出会いのきっかけは？

A 2歳のときの、「N響アワー」です。当時コンマスだった徳永二男先生（後の私のヴァイオリンの、音楽の、人生の師匠）の演奏ぶりをテレビで観て、「ヴァイオリンを弾いてみたい」と言ったらいいです。両親は“その気持ちで4歳の誕生日まで続いたら買ってもらえる”と約束してくれました。そして迎えた4歳の誕生日。「ヴァイオリンをやりたい！」と言ったらいいです。(笑)

Q 好きなヴァイオリニストは？

A 一人だけあげるなら、早くから天才と称えられたアメリカのマイケル・レビンです。彼の6枚組のCDを、本当に数えられないくらい聴きましたね。あの名教師のガラムィアンでさえ『非の打ち所がない』と評したほどのヴァイオリニストでしたが、決して幸せな音楽家人生ではなかったようです。それでも、そのCDからは、彼の溢れんばかりの音楽の才能を感じ取る事ができます。ここ数年、毎

年宮崎国際音楽祭で共演しているピンカス・ズッカーマンも、『幸い自分は同じ門下として触れ合うことが多かったが、自分が今まで出会ったヴァイオリニスト達の中で、彼より完璧な存在に出会った事は無い』と言っていました。

Q これから、山響で叶えたい夢について

A 山響と、“山響でしかできないこと”をやっていききたいですね。山響の特徴はまず、少数精鋭であり、メンバーが一致団結しているということ。それは音楽に取り組む上でとっても重要な事です。これからの時代、やはり国内だけでなく、大袈裟に聞こえるかもしれませんが、世界に向けても山響の素晴らしさを発信していくべきだと思います。そのためにも、世界の超一流の音楽家との定期的な交流、共演が生まれることを望んでいます。彼らの音楽に直接触れることで、私たちが刺激を受け、彼らにも山響の良さを感じ取ってもらえると確信しています。私の繋がりも活かして欲しいと思って、色々相談しています。

Q 最後に、山響ファンの方々にメッセージをお願いします！

A 山形は、自然が多く、季節を肌で感じる事が出来る場所ですね。あと食べ物ややはり何でも美味しい！（時間がなくて、まだ市内しか体験していませんが）

山響とご一緒することになってから日は浅いですが、今後の希望、期待も含め、これから演奏会と一緒に創ることを本当に楽しみにしています。ぜひ可能な限り毎回会場までお越しください、山響の『今』を感じていただけたら嬉しいです。

10年以上オーストリアで暮らし、モーツァルトを愛する高橋さん（彼の、モーツァルトへの想いはまた別の機会にお伝えします！）。海外での活動も活発。アンサンブルのメンバーとして、ヨーロッパ内や、日本を含めたアジア各地へのツアーに同行することもあるそうです。山響に新風をもたらす高橋さんと山響に、ご期待ください！

今回は、犬伏 亜里さんです